平成２６年度第２回川崎市政策評価委員会　摘録

１　開催日時　平成２６年７月２８日（月）１３時３０分～１４時４０分
２　開催場所　川崎市役所第３庁舎１５階　第２会議室
３　出 席 者　委員　　垣内委員長、川崎副委員長、野口委員、生駒委員、浅野委員、
　　戸田委員、能條委員
　　総合企画局　瀧峠局長
　　総合企画局都市経営部　唐仁原部長
　　総合企画局都市経営部企画調整課　久万課長、阿部担当課長
　　総務局行財政改革室　鈴木担当課長
　　事務局　　総合企画局都市経営部企画調整課
　　対馬担当課長、青木担当係長、小西職員

４　議　事
（１）平成２５年度施策評価の検証結果について
（２）その他
５　傍聴者　なし
６　会議内容

開会あいさつ（総合企画局長）

本日はお忙しい中、政策評価委員会へ出席いただき感謝申し上げる。

本日の委員会では、前回の委員会で御審議いただいた意見を踏まえ、本委員会での検証結果をとりまとめていただくことになる。

次に、本委員会の今後の予定については、昨年の１０月から着任いただいている第５期委員の皆様には、当初、２年間という任期でお願いしていたが、その後、昨年１０月末に行われた市長選挙で、市長が代わり、新たな市政運営の方向性が示され、川崎再生フロンティアプランに替わる新たな総合計画を、平成２６年度から２７年度までの２か年をかけて策定することになった。併せて、これまで本委員会が検証を行ってきた、川崎再生フロンティアプランに基づく施策評価についても、平成２５年度で終了することになった。

このため、本年秋以降、この委員会にどのような役割を担っていただくかについて、本年春から、慎重に検討を重ねたが、皆様には、川崎再生フロンティアプランに基づく施策評価を行っていただくために委員をお願いした経緯もあり、残りの任期については活動を休止させていただく方向になった。特に、今回新任された委員の皆様には、１年目が終わって慣れてきた時期に、このような話となり、大変申し訳ないが、理解いただきたい。よって、本委員会の活動は、事実上本日が最終回となるが、本日とりまとめる検証結果については、新たな総合計画の策定や評価制度の見直しにおける重要な意見として承りたいと考えているため、忌憚のない審議をお願い申し上げる。

議事（１）平成２５年度施策評価の検証結果について

垣内委員長）事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

川崎副委員長）資料１の１０・１１ページの今後の課題と取組の方向性について、平成２４年度の検証結果と比べると、「（１）評価内容の組織的なチェック力の向上」の部分がなくなり、それ以外にも取組の方向性の項目の順番が入れ替わっているが、何か意図はあるのか。

その他、これまでの委員会を通して、改善されたことについても記載したほうがよいのではないか。

対馬担当課長）平成２４年度の検証結果の「（２）評価区分に対する説明の分かりやすさの向上」、「（３）目標・指標の明確化等の更なる推進」及び「（４）評価結果の市民への着実な広報の実現」については、今回の提言の中に含まれているという認識である。「（１）評価内容の組織的なチェック力の向上」については、新たな総合計画策定を行う中での内部的な話であり、この提言の中には入れなかった。

また、これまでに改善された内容については、資料１の「３　今後の課題と取組の方向性」の２段落目に「昨年度に本委員会から示された意見の各所管局へのフィードバックを行うことにより、成果の説明や参考指標の設定等において改善が図られ、分かりやすさが更に向上した。」と記載されており、簡単ではあるが、改善の内容も記載している。

川崎副委員長）もう少し強調した方がいいのではないか。

垣内委員長）検証結果については、改善されたものなどポジティブな内容も記載することは大事だと思う。その記載場所として、「３　今後の課題と取組の方向性」の部分に別立てで記載するのか、それとも「おわりに」の部分に記載すべきか。

生駒委員）追記しようとする内容は、「３　今後の課題と取組の方向性」という表題には合わないため、別項目として記載するか「おわりに」に記載した方が、納まりはいいと思う。

垣内委員長）そもそもこの報告書のタイトルが「平成２５年施策評価の検証結果」となっており、平成２５年度の評価結果に関することは「３　今後の課題と取組の方向性」に記載すべきであり、「終わりに」の部分には、今後の総括のようなコメントを記載しており、こちらに記載することが適当ではないか。

戸田委員）過去の委員会の報告を見ると、当初から目標の明確化という意見が出てきており、未だに同じ意見が出されているということは、庁内にうまくフィードバックされていないのではないかと思う。施策評価における市民意識とのかい離は、どうしても発生するが、市民への分かりやすい広報と同時に、職員の意識改革についても組織として考えていく必要があるのではないか。

対馬担当課長）職員の意識改革については、いつでも必要であるという認識を持っている。目標の明確化については、総合計画の作りに起因している部分がある。そもそも本市は、総合計画策定時に議会の議決を要する基本構想・基本計画の記載が他都市と比べても細かく、そこで掲げた目標等を評価票に記載している状況であるため、より目標を明確にするには、総合計画そのものを変更する必要が生じてしまい、どうしても意見を反映させにくい状況にある。今回総合計画を策定するにあたって、目標の明確化を高めていくよい機会であるため、委員会の意見を反映できるよう努力していきたい。

唐仁原部長）戸田委員が発言されたことは、行財政改革プランでも、取組のひとつとしている。施策を実施する上で市民との意識のかい離はあり、職員の意識改革を行財政改革の一環として取り組んでいるが、まだ十分ではなく、今後もより一層推進していく必要があると認識している。

垣内委員長）川崎副委員長の意見のとおり、ポジティブな意見、残された課題を合せて記載する方向が望ましいと思う。

　私も第２期の委員会からこの委員となっているが、その時から比べると分かりやすくなったということは確かであるが、市民から見た分かりやすさという視点においては、まだかい離している部分があると思う。行政も人が代わり、それまで培われたノウハウが、新しい人に全て引き継がれない部分もあり、そういったことも含めて、資料１の１０・１１ページに記載できればと思うがいかがか。

対馬担当課長）組織的なチェック体制などの職員の意識改革については、組織の内部的な問題ということで記載しなかったが、組織力の向上に絶えず取り組んでいくというようなことも追加で記載した方がよいか。

垣内委員長）あまり長く記載する必要はないが、意見はできるだけ入れておいた方が、過去の知見の共有という観点からよいと思うが。

野口委員）評価そのものも重要だが、市民が率直な意見をぶつけ、それを行政側の担

当者が答えるというプロセスの中で、行政側の担当者が市民の視線を常に感じる意識を持つことができることが非常に大事であると思う。

川崎副委員長）平成２５年度施策評価の検証結果とこれまでの取組の総括的な意見は書き分けるべきだと思うが、１点、今年度に関しても資料１の６ページを見ると年々改善していることが数字を見ても見受けられるので、そういった記述もあった方がよいと思う。

総括的な部分については、当初から指標の活用や数値的に分かりやすくできないかなどの意見が数年続いているが、ある時からそれが改善され、最後にやはり目標に問題があったと、長年の委員会のプロセスを通じて明確になっているように見受けられる。そういった意味では、同じことを書き続けていることは、ある意味で大事であり、きちんと整理しておいた方がよいのではないかと思う。

垣内委員長）平成２５年度の施策評価については、資料１の３の（３）までの記載でいいと思うが、「おわりに」という部分に総括的なコメントが繋がるよう、これまでのプロセスが分かるように補記した方がより分かりやすくなるのではないかと思う。一つには、年々分かりやすさが向上しているが、向上した理由として、一連のプロセスの中で職員の意識の変化があったり、組織力が向上したりと、チェックが機能するサイクルに入ったということが上げられる。

一方、明確な行政課題の設定などの論理的な説明は、継続的の課題になっているが、市民目線を意識しながら、引き続き取り組んでいく必要がある。こういった意見以外にも付け加える部分があれば、発言いただきたい。

能條委員）新たな総合計画の策定に向けて、現在の評価制度も区切りになると思うが、資料１の３の（３）の中の「より効率的・効果的で、市民に分かりやすい仕組みとするための見直し」とあるが、９年間の委員会を通して具体的にどういった見直しを行うのか、記載があった方がよいかと思う。

対馬担当課長）この提言の構成上は、資料１の３の「（１）明確な行政課題・取組内容・達成目標の設定」・「（２）市民にとって分かりやすい広報の実現」で、個別具体の改善すべき課題を記載し、これらを受けて（３）で全体的な評価制度について記載している。そういった意味で、見直しを行うべき内容は、（１）・（２）に含まれているという解釈である。

能條委員）（２）の広報というよりは、評価のチェック方法などの記載もあった方がよいのでないかと思う。

対馬担当課長）（３）はある意味大きな視点で評価制度全体の話をしているため、あまり細かい部分を例示としてあげるのは馴染まないかもしれない。（３）の記載の中で、「事業の重要性や性質に応じた評価手法の検討」など、前回の委員会でも意見があった、事業費の規模に応じて評価手法を変えるなどの視点は入れ込んでいる。

垣内委員長）（３）の記載の中で「より効率的で効果的で、市民が分かりやすい仕組み」という表現だと、抽象的な表現で具体性がないという能條委員の趣旨だと思うが、（１）・（２）の要素を（３）に記載することはできないか。

対馬担当課長）効率的で効果的な仕組みとは、まず明確な行政課題を立てて、どういうものを評価対象として、その評価作業にどれだけ時間をかけ、その後どうやって外部評価を行うのかという一連の流れをどう効率的に効果的に実施していくかということであると思うが、中々言葉で表現することが難しいので、そういった視点でこの委員会でキーワードをいただければ、反映させたいと思う。

川崎副委員長）過去の委員会からの提言をみていると、当初は、「結果の情報共有」、「改善意見のフィードバック」などの意見が記載されていたが、その後こういった意見がなくなったということは、これらが改善されたことにより、分かりやすさが向上したと言えるのではないかと思う。

垣内委員長）委員会からの意見を受けて、事業局にフィードバックすることで、市民への分かりやすさが向上したと言えるということは、要するに PDCA サイクルが効果的に機能したということだと思うので、その実現のためにすべきことを具体的に踏み込んで記載してはどうか。

対馬担当課長）各委員の意見を加味して（３）について修正したいと思う。

浅野委員）資料１の３の（２）の中の広報手法について、分かりやすい資料を作るだけでなく、市民が身近な駅やスーパーに小冊子を設置するなど、市政に対する意識が薄い市民でも、容易に情報を入手できるような環境を整えることも大事だと思う。

唐仁原部長）（２）に記載している小冊子は、パンフレットのようなものを想定し、行政サービスコーナーなどの公共施設に設置するイメージである。

　行財政改革に関するパンフレットは、金融機関の待合スペースに設置するなど工夫しているが、委員が言われたように、市民が立ち寄り閲覧しやすい

場所への設置など工夫していきたい。

垣内委員長）そうなると（２）の記載に、市民が手に取りやすい場所に設置するなどの文言が入らないか。

対馬担当課長）現状としては、市政だよりは、駅やコンビニに設置されているが、それ以外の冊子については、設置するスペースの関係から難しい状況であり、どうしても公共施設中心の設置になってしまっている。ただし、委員会としての提言として、そこを補記することで、行政が更に努力することになるので、記載する方向で検討したい。

生駒委員）この評価委員会では、委員が評価票チェックシートで指摘した内容に対して、翌年度に事業局所管課から回答を頂くプロセスとなっていた。事業局からの回答や対応をフィードバック頂けることが非常に刺激的であった。このプロセスにおいて、評価票作成に係る事業局の悩みや工夫を垣間見ることもできた。この事業局とのやりとりが、評価の分かりやすさを高める上で価値を持っていたのではないかと思う。ちなみに、今回の評価票チェックシートへの委員コメントに対しては、例年どおり事業局から回答をいただけるのか。

対馬担当課長）例年は、次年度の帳票に反映させた内容を、チェックシートに対する回答として記載していたが、今回は次年度以降に反映させる計画がないため、チェックシートに対する回答は考えていない。ただし、委員からいただいた意見は、事業局にフィードバックし、新たな総合計画の策定等に活かしていきたいと考えている。

議事（２）その他（スケジュール等）

垣内委員長）今回の委員会が実質的に最後の委員会となるため、各委員から、意見や感想について述べてもらいたい。

浅野委員）元々地元が宮前区で町に愛着があったが、宮前区の転入者向けの情報誌の作成に携わる機会があって、まちづくりに興味を持つようになり、今回この政策評価委員に応募した。委員になったことにより、市や区と市民が一緒になって取り組む事業が数多くあるということを知ることができ、また市全体の取組も知ることができたことはよい経験となった。

能條委員）市に６０年近く住んでいるが、ほとんど市の広報を見る機会がなかった。

今回この委員になり、これだけ市に様々な事業があるということを知って、ようやく市民になることができたと感じている。

戸田委員）評価に関する委員になったことで、市の税金の使い道を見ることができたのはよい機会であった。

野口委員）我々の税金がどう使われているか、なんとなく分かっているが、こういった評価票を見てみないと分からない部分が多いので、非常に勉強になった。

市民と行政がお互いフィードバックし合うことで、お互いの意識を把握でき、サービスの向上や効率化に繋がり、結果市民との協働も進むが、評価制度はこのような流れを作るような仕組みにしていかなければならないと感じている。

川崎副委員長）川崎市は１４５万人都市で、国が実施するような港湾などの事業も行っており、ある意味で国の縮小版のような印象であった。行政評価は、コミュニケーションツールであり、市民等と意見交換する中でお互いの理解を深めることができるところがある。難しいカタカナ用語についても、関係者間では通じるが、市民からすると分からないこともあり、こういったコミュニケーションを通じて気付かされることも多い。どういう方法でもいいと思うが、今後も行政と市民がコミュニケーションを取れるような仕組みを担保し続けることは、地方行政にとって重要なことであると思う。

垣内委員長）行政で評価されたものが分かりやすいかどうかを評価するメタ評価ということでこの委員を引き受けたが、当時は評価票も分かりにくかった。メタ評価でどこまで改善されるか不安であったが、やってみると効果的で、年々分かりやすくなっていった。また、政令指定都市は、自転車対策から下水道まで様々な業務を行っていることが分かり大変勉強になった。

毎年分かりやすくなった一方で、文化振興の分野など、定量的に目標を設定できないようなものもあるなど、課題も残っている。ただし、そういう課題があるということを認識しつつ、少しでも理解していくというプロセスが大事であると強く感じた。

本委員会は今回が最後になるが、様々な意見をいただき感謝申し上げる。